

令和3年度  
「みえ産業振興ビジョン」  
アドバイザーボード

令和3年7月19日（月）  
三重県

# みえ産業振興ビジョンアドバイザーボードについて

## ●今回の会議の趣旨

「みえ産業振興ビジョン」の策定時（平成30年11月）以降、様々な社会情勢の変化が生じており、本県における産業等の将来像や取組方向等について、変化を踏まえた検討が必要となっている。そのため、今後のビジョン見直しの方向性や改定に向けた基本的な考え方について、専門的な意見をいただきたい。

## ●ご意見いただきたいポイント

ビジョンの見直しに向け、社会情勢の変化を踏まえた「みえ産業振興ビジョン」に掲げる10年先（2030年）の産業等の姿を改めて検討するために、主に以下3つの視点から、ご意見をいただきたい。

- 視点1 新型コロナウイルスによるパンデミックがもたらす影響
- 視点2 デジタル・トランスフォーメーションの進展
- 視点3 グリーン成長戦略など脱炭素化の取組

県内中小企業の状況など  
ミクロの視点も含めて

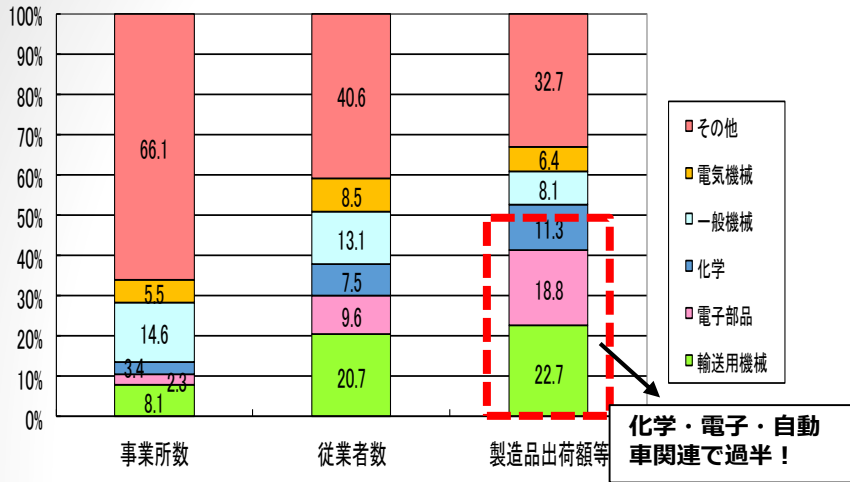
取り入れるべき内容・反映すべき内容

新たな10年先（2030年）の産業等の姿

新たな  
みえ産業振興ビジョン

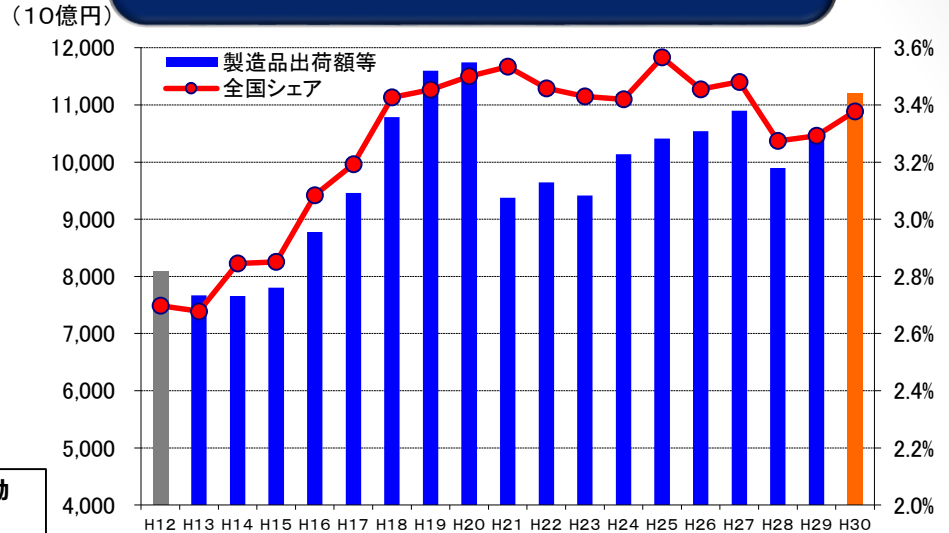
# 三重県経済の状況について①

## 業種別事業所数等構成比率（平成30年）



※経済産業省「工業統計調査」より作成

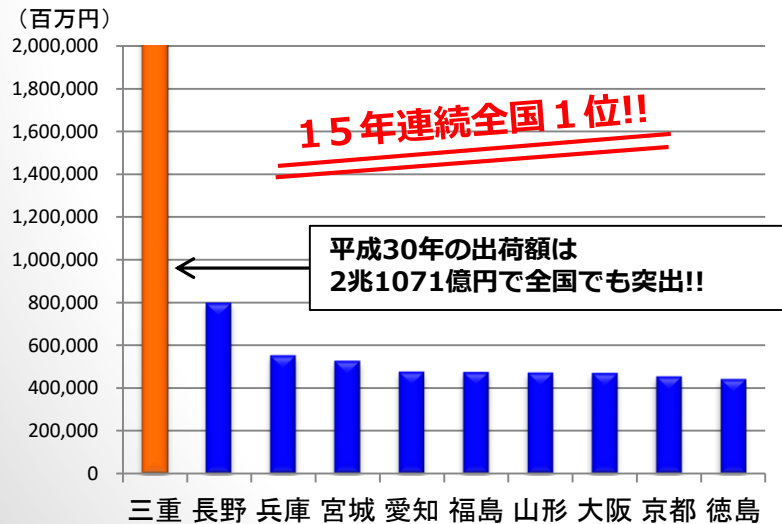
## 製造品出荷額の推移



※経済産業省「工業統計調査」より作成

## 製造品出荷額（平成30年）

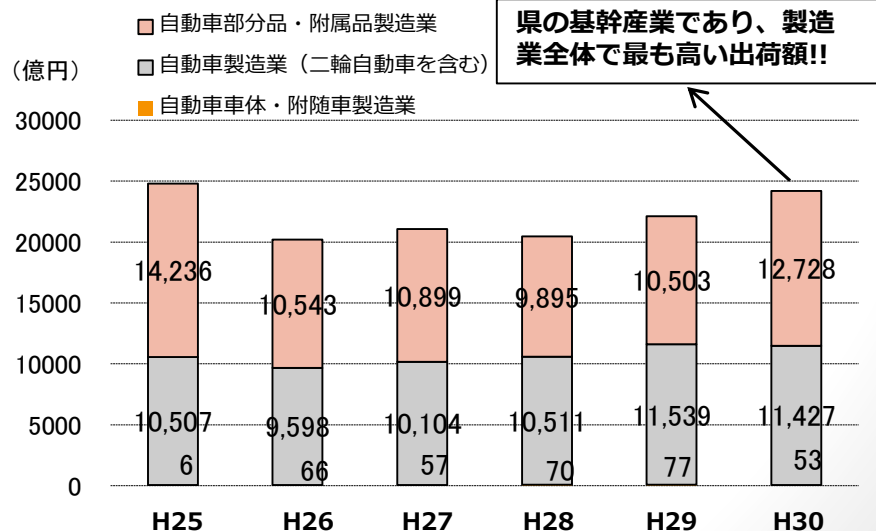
<電子部品・デバイス・電子回路製造業>



※経済産業省「工業統計調査」より作成

## 製造品出荷額の推移

<自動車関連産業>

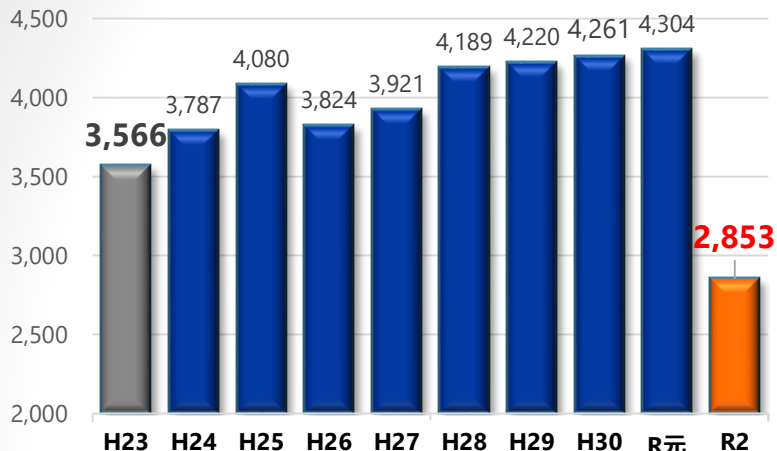


※経済産業省「工業統計調査」より作成

# 三重県経済の状況について②

## 観光入込客数の推移

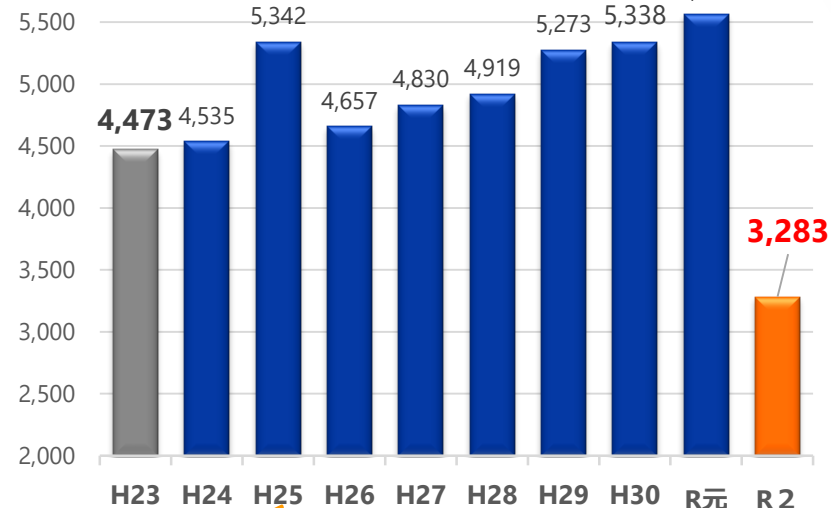
(万人)



※三重県作成

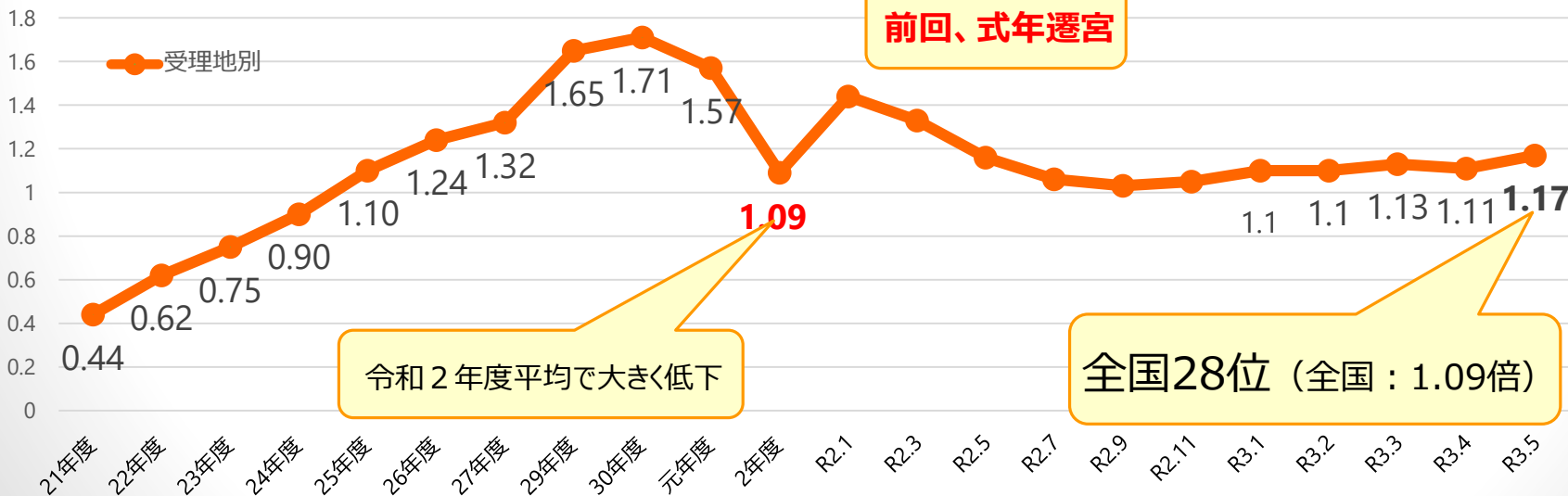
## 観光消費額の推移

(億円)



※三重県作成

## 有効求人倍率の推移



令和2年度平均で大きく低下

前回、式年遷宮

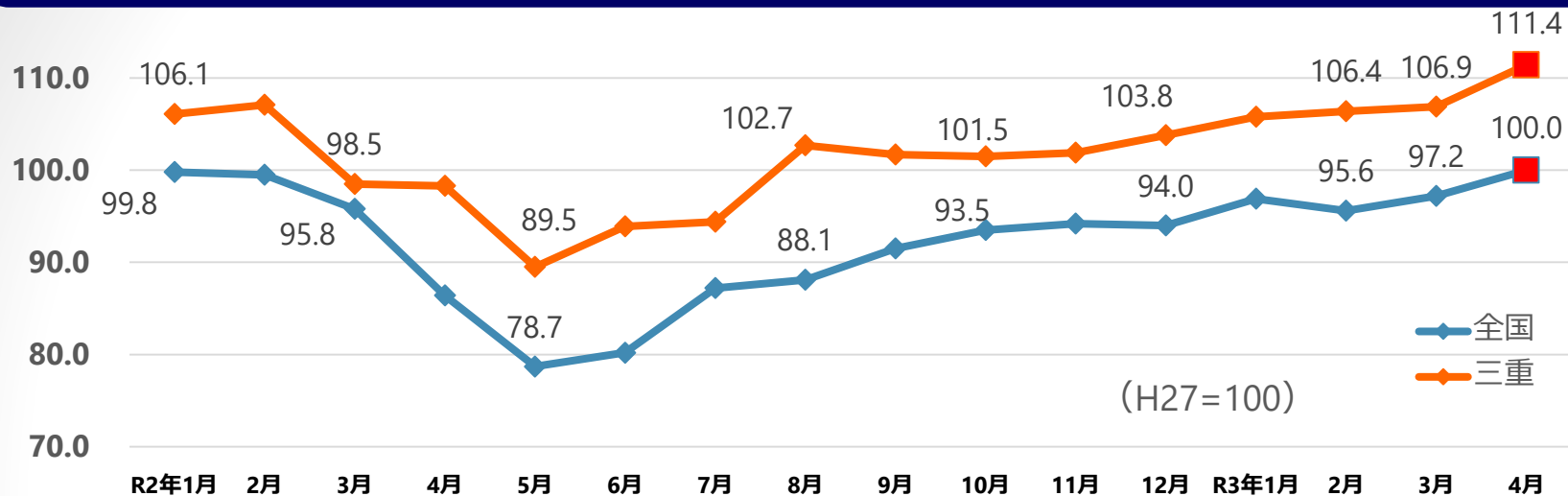
全国28位 (全国：1.09倍)

※各年度平均値は原数値、各月の数値は季節調整値

出所：三重労働局職業安定課

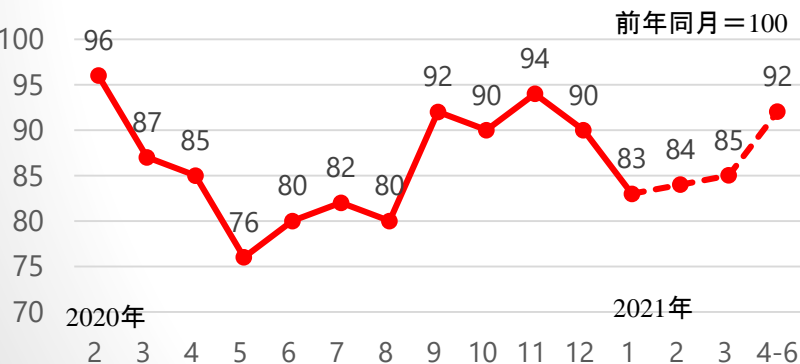
# 社会情勢の変化① 《コロナインパクト》

## 鉱工業生産指数



※三重県作成

## 県内企業の売上高（対前年比の推移）



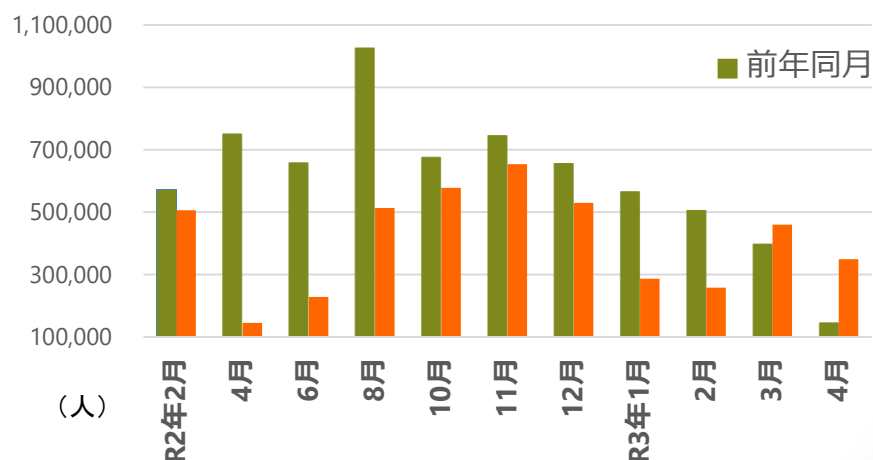
※株式会社百五総合研究所

「新型コロナウイルス感染拡大による県内企業への影響調査」

(注1) 県内企業は、製造・非製造を含めた様々な企業を指す。

(注2) 調査は2020年3月、5月、7月、11月、2021年1月に実施。  
2021年1月以降は見込み。

## 三重県内の延べ宿泊者数

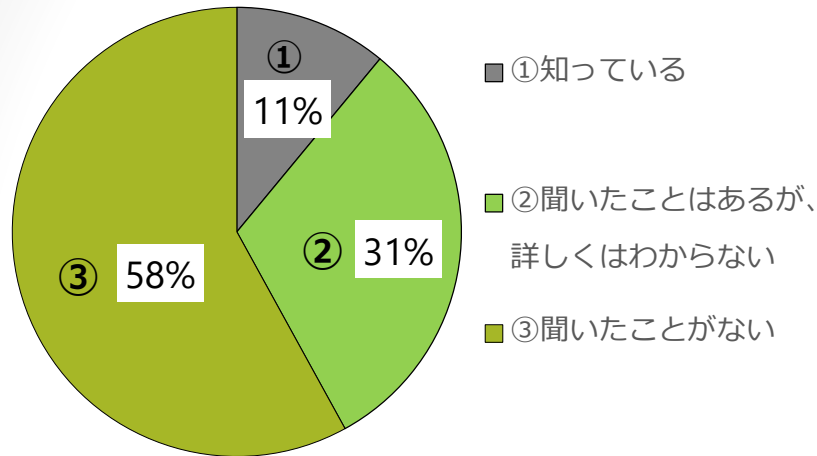


出所：宿泊旅行統計調査（観光庁）

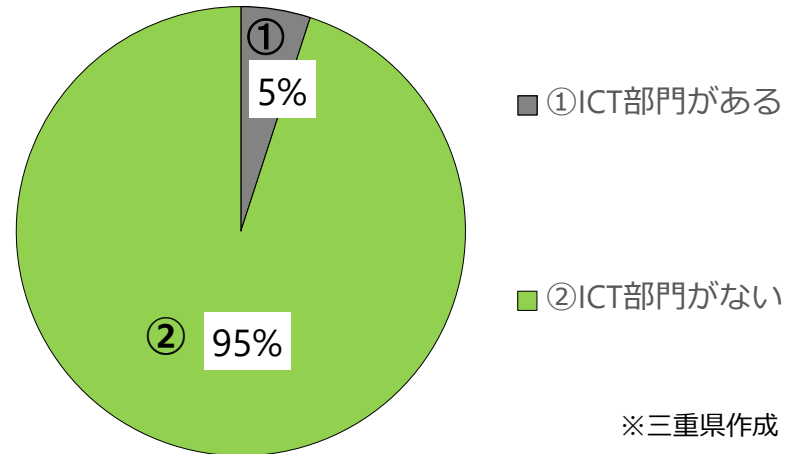
# 社会情勢の変化② 《DXの推進》

## 県内企業ICT・データ活用アンケート調査（2020年11月調査）

【質問】DXという言葉をご存じですか。



【質問】現在、貴社内にはICTの担当部門はありますか。（他の業務との兼務も含む）



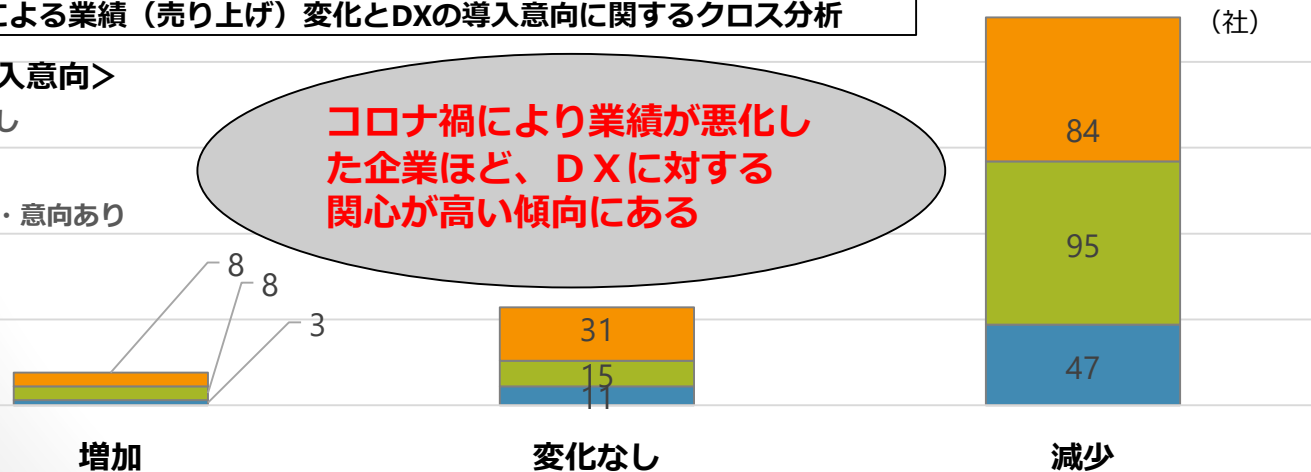
※三重県作成

## コロナ禍等社会経済情勢変化への対応状況調査（2020年9月～10月調査）

コロナ禍による業績（売り上げ）変化とDXの導入意向に関するクロス分析

<DXの導入意向>

- 意向なし
- 未実施・意向あり
- 実施



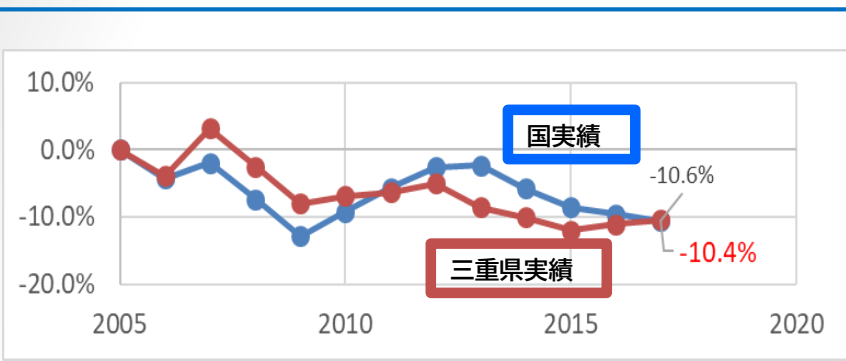
コロナ禍による業績（売り上げ）変化

※三重県作成

# 社会情勢の変化③ 《脱炭素社会の実現》

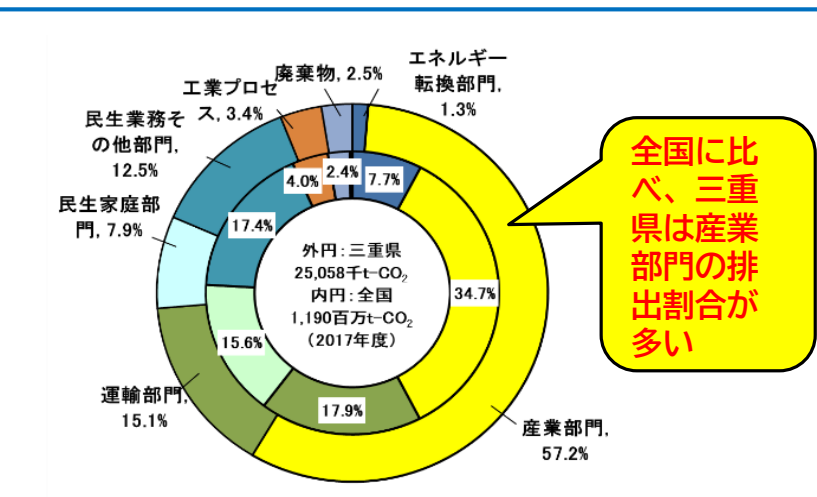
温室効果ガス排出は着実に減少してきたが、脱炭素に向けてはさらなる取組が必要！

## 温室効果ガス排出量の増減率（2005年度比）



三重県の削減率 -10.4% は、国（-10.6%）に匹敵！  
脱炭素宣言を行った自治体でもトップクラス！

## 三重県 CO2排出量部門別構成比



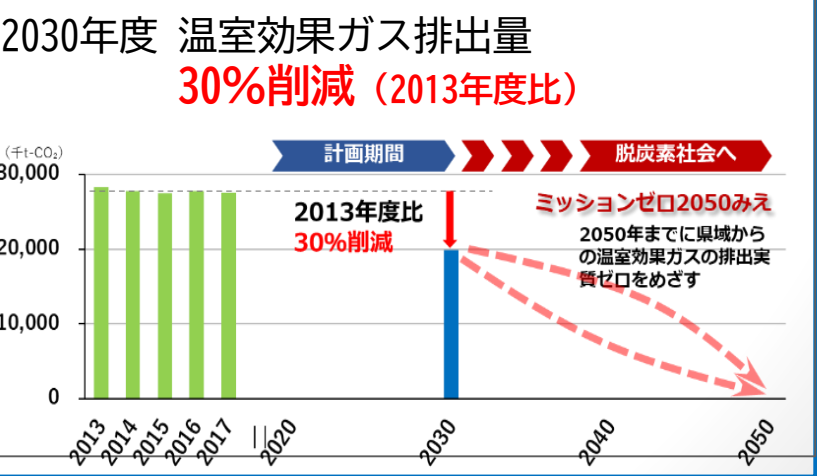
## 三重県地球温暖化対策総合計画

基本的な方向 計画期間 2021年から2030年

- ①「緩和」と「適応」気候変動対策の両輪
- ②SDGsの観点 環境、経済、社会の統合的向上
- ③多様な主体との協創
- ④新型コロナウイルス危機からの復興を気候変動対策とともに推進（グリーンリカバリー）

2030年度に三重県がめざす姿  
県民一人ひとりが  
脱炭素に向けて行動する持続可能な社会

## 削減目標





# 社会情勢の変化を踏まえた「みえ産業振興ビジョン」に掲げる 10年先（2030年）の産業等の姿

## 視点1 新型コロナウイルスによるパンデミックがもたらす影響

- ▶ ワクチンの普及や治療薬の開発で新型コロナウイルスが収束し、再び**対面・接触による経済活動**が中心となるが、例えば、外出や移動が困難な人が**オンライン観光**を利用するなど、**非対面・非接触による経済活動**についても、一部では重要性が増すのではないかと。
- ▶ **テレワーク**など対面・接触にこだわらない多様な働き方が企業で継続し、実践していることに加え、都市部の一極集中が見直され、地方の価値が一層高まっていることから、地方への**移住**が進むほか、例えば大企業において、**地方在住の本社採用**が増えるのではないかと。
- ▶ **VR（仮想現実）**による触感再現技術が向上し、商品の細部を宣伝できるオンライン商談会が開催され、県産品を海外市場向けにPRする場面が増えるほか、**MR（複合現実）**を活用した海外企業との会議が活発に行われ、コロナ前では機会が得られなかった企業活動が広がっているのではないかと。
- ▶ 「みえモデルワーケーションプロジェクト推進方針」の取組が着実に成果を生み、**ワーケーション、ブリージャー**など新しい働き方の普及により本県の関係人口が増加することで、都市部に在住する個人が地域における魅力や課題を肌で感じることから、日本の地域課題の縮図と言える本県において課題の解決につながるような**スタートアップ**や**第二創業**が湧き起こるのではないかと。

### 【令和3年度産業実態に関するアンケートにおける意見】

・若い人材が県外数多く流出していますが、そのうち50%程度の方が戻ってきてくれれば、人口減少にも、歯止めがかかると思います。ある程度年齢がいくと戻るに戻れない。後悔している人も多くいる様に感じる

## 視点2 デジタル・トランスフォーメーションの進展

- ▶ デジタル化が浸透・進展し、企業内で**ICT化による生産性向上**や**AIによるデータ分析**による経営戦略などが広がり、DXの取組が対外的な企業価値を高める重要な指標となっているのではないかと。
- ▶ **5G・Beyond 5G**のデジタルインフラの整備が進み、省人化や自動化による工場生産やサービス提供が広がるほか、例えば、**データセンターの分散化**と相まって低遅延により可能となった**自動運転**等の新しいビジネスが生まれているのではないかと。
- ▶ DXに取り組む**先駆的な企業**や地域においてDXを牽引する**人材**が育成されることにより、県全域においてDXが浸透し、例えば、**タオル製品や焼き物など地場産業品**を取り扱う事業者が、デジタル技術を活用して、県外や海外の事業者とのコラボレーションし、革新的な商品開発を進めているのではないかと。



# 社会情勢の変化を踏まえた「みえ産業振興ビジョン」に掲げる 10年先（2030年）の産業等の姿

## 視点3 グリーン成長戦略など脱炭素化の取組

- ▶ 脱炭素化にはイノベーションの取組が必要であり、それらを成長のきっかけと捉えて、例えば、グリーン成長戦略の重要分野である次世代型太陽電池や蓄電池のリユースの技術開発などに、果敢に挑戦する企業が生まれているのではないか。
- ▶ 脱炭素化に伴う産業構造の転換により、業種間を越えた労働移動が想定され、例えば、部品供給の大きな変化が伴うEV化を進める自動車産業においては、従来のガソリン車に必要な部品供給が不要となり、企業において業態転換を余儀なくされるが、EVに必要な部品供給やサービスインフラの提供を行う企業において新たな雇用が創出されるのではないか。
- ▶ 県内中小製造業の一企業では、サプライチェーンの一角として、発注元の川下産業から求められていたカーボンニュートラルを目標年次に対して前倒して達成するなど、企業間での競争力を向上させ、地域のトップランナーとして牽引しているのではないか。

### 【令和3年度産業実態に関するアンケートにおける意見】

- ・次世代自動車が増えてきて、高度なコンピューターが搭載されるようになれば、私達解体整備工場で出来る仕事は大幅に減るでしょう。

## 視点4 その他、想定される社会情勢の変化等

- ▶ デジタル製品の需要の増加に伴って半導体の生産が世界的に増え、日本においてもサプライチェーン強靱化の重要性が高まることから、国内での製造強化に向けた量産工場や関連産業の企業立地が進むのではないか。
- ▶ 2033年に行われる次期式年遷宮に向け、本県への入込客が過去最大規模になると想定されるが、一部の観光地への一極集中化を避けるため、県内各地の周遊観光など人流を分散化するための整備が進められているのではないか。

### 【令和3年度産業実態に関するアンケートにおける意見】

- ・企業の人材が地域に社会貢献を出来る様な制度がほしい。

### みえ産業振興ビジョンの特徴・位置づけ

### 課題 (P5~)

- ①概ね10年先を見据え、三重県の産業だけでなく県民生活や地域社会を取り巻く環境の変化等を想定しながら、中長期的な視点で、めざすべき産業の姿や産業政策の方向性を提示する。
- ②産業分野別の振興策だけではなく、県内の産業を振興することで、地域社会の様々な課題の解決にもつなげるという視点で政策を構築する。
- ③広く県民の皆さんの意識の変化を促し気運を高める、とりわけ10年後、20年後に地域社会の担い手である若者、子どもたちに県内の産業で活躍したいと思ってもらえるビジョンとする。

- ①IoT, AIのビジネスへの積極的な取り込み (第4次産業革命への対応)
- ②今後、成長が期待される産業分野の育成
- ③アジアシフト化する世界経済への対応
- ④新たな知恵や知識、技術の取り込み、新しい価値の創出
- ⑤企業の社会的責任としての活動 (地域課題解決等) の促進
- ⑥人材の確保・育成と多様な働き方の実現
- ⑦中小企業・小規模企業の振興とサービス産業の生産性向上

## 第1章

### 2030年頃の産業等の姿 (P1~)

- ①**第4次産業革命等への適応**
  - ・県内ものづくり企業がICTを最大限に活用し、付加価値額を増加
  - ・CO2ゼロエミッションや自動走行など次世代自動車分野が成長し、サプライチェーンが変化
  - ・キャッシュレス化が一般化し、AIによるデータ分析によりサービス産業の生産性が向上
  - ・空飛ぶクルマが実用化し、便利なヒト、モノの移動が可能
  - ・スマート・ファクトリー化が進展し、国際競争力が向上
- ②**ダイバーシティ社会へ**
  - ・ICTを活用し、地方にいながら直接世界とつながることが可能に
  - ・ICT技術が浸透する中で、女性、高齢者、障がい者の活躍の場も拡大
  - ・副業、複業が一般的になるなど、多様な働き方が可能に
  - ・新しいビジネスにチャレンジする若者が増え、人材の交流が活発
- ③**スーパー・メガリージョンにおけるプレゼンス向上**
  - ・リニア中央新幹線の開通、構想道路網の整備などインフラ整備が進み、物流の効率化による県内企業の生産性が向上
  - ・本社機能を東京から三重県に移転する企業が増加
  - ・地域の観光情報が広く国内外に発信、第63回式年遷宮とあいまって、三重県が全国有数の観光先進県に
- ④**アジア経済圏の一翼を担う**
  - ・県内企業が積極的な国際展開、特にアジア圏への展開の足場を拡大
  - ・みえの食が世界中から注目され、食関連産業が本県経済の主要産業に
  - ・ハイエンドホテルの立地が進み、世界の富裕層から長期滞在リゾート地として注目
- ⑤**地域課題の克服**
  - ・自動走行のコミュニティバスが、通園・通学、買い物、通院などのための送迎を展開。自動走行の一人乗りパーソナルビークルが活用され、県内全域で人々の生活の利便性が向上
  - ・新しいビジネスモデルに挑戦するケースなど、円滑な事業承継が展開
  - ・衣・食・住や介護など地域生活に密着した様々なサービスを総合的に担う事業者が、新たなビジネスを展開
  - ・高齢化をはじめとする地域課題の解決にも貢献し、地域生活の質を維持・向上
  - ・三重県の恵まれた自然特性を生かした再生可能エネルギーの導入

## 第2章

### 基本理念 (P14~)

#### 【今後の産業政策で大切にしたい視点】

- ①産業を取り巻く社会経済情勢等の大転換への適応
- ②「若者」に魅力あるしごとの創出
- ③「KUMINAOSHI」による新しい価値の創出

**既存価値を超え、KUMINAOSHIの産業政策で若者が躍動する三重**  
 ~ 知恵や知識、技術を組み合わせ・繋ぎ直し、共感と協創による新しい三重の産業創出 ~

【KUMINAOSHI】企業活動や地域活性化の取組などにおいて、人材や技術、地域の資源、ビジネスなどのさまざまな要素について、既存のものだけでなく新たなものを積極的に取り込み、それらを組み合わせたり、繋ぎ直したりすることで、イノベーションを起こし新たな価値の創出につなげること。

### 4つの取組方向 (P17~)

#### 取組方向1 ものづくり産業の第4次産業革命への適応

本県の強みであり、本県経済を牽引している「ものづくり産業」を維持し、持続的に発展させていくためにも、「ものづくり産業」の第4次産業革命への迅速な適応を促進していく。

#### 取組方向2 多様な魅力(特性)を生かした付加価値の創出

世界にも誇れる県産食材や県産品、県内観光資源など、多様な三重県の魅力(特性)を再認識し、それらの活用を一層促進していくことで新たな付加価値の創出につなげる。

#### 取組方向3 人口減少社会での地域課題の解決への貢献

人口減少と超高齢社会の到来、さらには若者の県外への流出が続く中、都市地域や農山漁村地域それぞれが課題を抱えており、産業政策を通じて、そうした地域課題の解決にも貢献していく。

#### 取組方向4 産業プラットフォームの強化

1~3の取組方向に沿って力強く施策を推進していくため、産業基盤やネットワークを強化していく。

# 三重県での取組内容の紹介 《D X ・ 脱炭素》

## 新しい時代の経営革新に向けたD X推進プラットフォームの構築

三重県の中小企業（製造業）が抱えるD Xについての課題

- ① D Xへの理解など経営者の意識改革
- ② 人材の不足 ③ A I、I o Tなど技術力の不足
- ④ 企業間のつながりの不足 ⑤ 先行的な投資への資金の不足

これらの課題を解決するために



挑戦と多様性の尊重

「相談」×「人材育成」×「交流・マッチング」3つの機能を持つ  
**デジタルものづくり推進拠点**を設置（令和3年7月4日）



デジタルものづくり推進拠点設置・D X 寺子屋開講キックオフイベント

### デジタルものづくり推進拠点における主な取組

- (1) D X 寺子屋の実施と D X 伝道師の育成・認定
- (2) D X 寺子屋やD X 伝道師による活動を通じた変革を促す**地域コミュニティ**の形成
- (3) 地域金融機関とIT専門家のセットで実施する経営改善とDX推進
- (4) 製造業種・部門別に**DX推進を牽引するモデル的な取組**を創出

産学金の参画による新たな共助の仕組み

高等教育機関、金融機関、商工団体、デジタル技術等を用いた課題解決が可能な企業等をパートナーとして募集し、県内企業のDX推進を支援する**「サポーターズパートナーズ」**として登録



生産過程のみならず、企業のあらゆる部門（総務・経理、調達・物流等）でD Xを推進

**サポーターズパートナーズと連携して三重のものづくり企業のD Xを強力に推進**

# 三重県での取組内容の紹介 《DX・脱炭素》

## DX×カーボンニュートラル×イノベーションPTの設置について

○ 短期的な視点による脱炭素社会の実現に向けて、データに基づき、新たな発想の転換を図るDXを県自らが実践し議論を行い、具体的な成功事例を積み上げながら県民の皆さんへ展開を図るため、関係各部署による「DX×カーボンニュートラル×イノベーション プロジェクトチーム(仮)」を設置し、取り組みを進めます。

○ 産業・雇用構造や社会制度など、転換を余儀なくされる様々な社会要素に関して、有識者による「脱炭素社会に向けた構造転換推進方針検討会議(仮)」を立ち上げ、中長期的な視点に基づく対応策を検討し、みえ産業振興ビジョン等への反映や、三重県脱炭素社会推進本部への実践活動に向けた助言等を行います。

スピード感を持った  
排出量削減行動の実行

脱炭素社会実現に  
向けた**短期的な視点**  
による**具体的取組**の  
検討・提示

三重県脱炭素社会推進本部 (本部長:知事)  
各部署局長

情報共有・方向性の議論

幹事会 (各部署総務課長等)

円滑かつ確実な転換プ  
ロセスを多角的に議論

脱炭素社会実現に  
向けた**長期的な視点**  
による**構造転換推進**  
方針の検討・提示

DX×カーボンニュートラル×イノベーション  
プロジェクトチーム (仮)

◎検討内容:

- (1) 脱炭素社会を実現する働き方、庁舎管理のあり方  
排出量削減に向けて自らが行動。実現に向けた**具体的取組事例**を提示 (アイデア出しと実践)
- (2) ステークホルダーへの取組の展開方法  
(1)の取組を切り口に**企業・県民の皆さん**への脱炭素社会  
実現に向けた**行動の展開方法**を検討 (県民の皆さんへの展開)
- (3) 再生可能エネルギー導入のあり方

実践活動  
をふまえた  
情報提供

脱炭素社会構築に向けた構造転換  
推進方針検討会議 (仮)

◎検討内容:

- (1) 脱炭素社会構築に向けたあり方
- (2) 脱炭素社会転換推進の方策
- (3) 脱炭素社会転換で生じる摩擦解消策  
(転換によって生じる産業構造・雇用構造・社会  
要素の変化に伴う摩擦解消に向けた対応策)

みえ産業振興ビジョン及び  
三重県新エネルギービジョンへの反映